

# 年頭のごあいさつ

黒潮町長 松本敏郎



明けましておめでとうござ  
います。新年を迎えるにあたり、  
住民の皆様へごあいさつ申し  
上げます。

昨年は、東京オリンピック  
で華やかな年になるものと思  
っていましたところ、新型コ  
ロナウイルスの猛威が世界中  
を襲い、かつて経験したこと  
がないほどの厳しい年となり  
ました。年末には、県内に感  
染第3波が広まり、いつものに  
ぎやかな師走ムードを吹き飛  
ばしてしまいました。私たちは、  
マスクの着用、こまめな手洗い、  
換気などの新しい生活習慣を  
身につけ、感染拡大防止に全力  
で取り組まなければなりません  
が、残念ながら、この新型  
コロナウイルスについては、完  
全に防ぎきることは困難で、誰

がいつ感染してもおかしくな  
い状況にあると考えています。

あるアンケートで、最も多  
かったのが「新型コロナウイルス  
という病気よりも、その感  
染で職場や地域から偏見の目  
で見られていることが恐ろしい」  
という回答でした。これは本  
当に正直な声ではないかと思  
います。この国には「おたがい  
さま」という言葉があります。  
思いやりの心を表す日本の美  
しい言葉で、日本赤十字社の  
精神にもつながっています。こ  
の「心」を忘れずに困難な事態  
を皆様とともにしのいでいき  
たいと思います。

このような状況の中でも昨  
年は嬉しいニュースもありま  
した。大方高校が令和2年度  
学校安全表彰(文部科学大臣賞)  
を受賞したことです。高校生が  
主体となつての防災活動を、研  
究機関の専門的知見を取り入  
れながら、地域住民や保育所、  
小学校・中学校、町が連携し  
て取り組んだことが全国的に  
高く評価されました。この内  
容は「高知県高校生津波サミッ  
ト」や「世界津波の日」高校生  
サミットで発表されるとも  
に、海外へも広く発信されて

います。

また、旧伊田小学校を拠点  
とした6カ所目の「黒潮町あつ  
たかふれあいセンター」が整備  
され4月から運営が始まります。  
これで黒潮町における地域の  
福祉拠点が完成し、「誰もが住  
み慣れた地域で安心し健康に  
暮らすことができるまちづくり」  
が一層進むこととなります。

四国横断自動車道路につき  
ましては、「佐賀大方道路」「大  
方四十道路」がそれぞれ事業  
着手され、工事が本格的に動  
きはじめました。これは黒潮町  
民のみならず、幡多地域住民の  
多くの人々が待ち望んでいた  
ことでしよう。この事業は、国  
の直轄事業ではありますが、黒  
潮町として向き合い解決しな  
ければならない課題がたくさ  
んあります。町長立候補にあ  
たり、防災・減災のために、  
ハードとソフトのバランスが  
とれた「災害に強いまちづくり」  
を最上位の公約とさせていた  
だきました。特に医療機関の乏  
しい黒潮町においては、安定  
した輸送路の確保が非常に大  
切です。なんとしても次の南  
海トラフ地震が発生するまで  
に完成をさせなければならま

せん。

また、黒潮町には、これま  
で地域で育んできた町づくり  
の文化があります。長さ4キ  
ロメートルの砂浜を美術館と  
考える「砂浜美術館」、カツオ  
一本釣り日本一船団を有する「黒  
潮一番地」、これらのソフトと  
高規格道路をうまく調和させ  
た町づくりに取り組むことが、  
この町の未来を左右すると考  
えています。

「南海トラフ地震にも、新型  
コロナウイルスにも、過疎に  
も負けない丈夫な町づくり」を  
官民一体となつて着実に進め  
てまいりたいと考えています。

住民の皆様におかれまして  
は寒さ厳しい折、くれぐれも  
ご自愛いただき、町政発展の  
ためより一層のご指導、ご鞭  
撻を賜りますようよろしくお  
願いいたします。

今年一年が皆様にとりまし  
て幸せな一年となりますこと  
を祈念し、新年のごあいさつ  
とさせていただきます。